

## 人とのつながりを再認識～私の2020

都市イノベーション学府修士2年 劉子豪(リュウシゴウ)

今日は来日してから3年5か月が経ち、2020年はあと二週間ほどで終わりますが、あまり実感がありません。皆さんにとって、2020年はいかがお過ごしでしょうか。今年が明ける前に、私は例年通り「来年もいい年になりますように」とお祈りしました。実際、それ以来、新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中ひっきりなしの激変を目のあたりにしました。そのため、2020年がいい年になっているとは言い難い中、私は改めて人との絆の重要性を認識することができてよかったと思います。

昨年、私はこの横浜国立大学に入学しました。それから勉強だったり工事現場見学だったり旅行だったりをして、研究室のメンバー達と素敵な思い出をたくさん作りました。しかし、感染拡大防止対策として、学校が一時的に入構できなくなり、私たち留学生にとってほかの人との接点がある一番重要な場所が消えてしまいました。そのため、私と同じく研究も就職活動も一人自宅で進めることになってしまった人は少なくはないでしょう。私の場合、実験ができないから研究を進められなくなりました。また、就職活動の面接の練習相手やアドバイスをしてくれる人もいないから、心細くて辛くてどうしようもない時期がありました。その時に思ったのは、この世界には、一人では難しいことが本当に数えきれないほどあるということです。

幸いなことに、それから、日本国内の状況が緩和し、入構許可がおりたことによって、私は少しずつ研究を進められるようになりました。また先生のご支援により、OBOGの方と繋がることができ、社内訪問までさせていただきました。ほかに、友達と一緒に面接対策を考えたり、模擬面接などもしました。多方面からご協力をいただいた結果、行きたい会社に合格することができました。本当に感謝してもきれないです。

一方で、一人では難しい場面が多いということも学んだため、私も私なりに他人の力になれるように頑張りました。例えばほかの留学生が就職活動に困っている時、同じ留学生の立場から自身の失敗や成功の経験に基づいてアドバイスをしました。また友人が持病で苦しんでいたのですが、日本語がうまくできず治療を受けられないため、一緒に病院に行きました。そして自分が手助けした人が就職に向けて一歩前進したことや病気を改善できたことで私は心から嬉しく思いました。

このたった一年間で、皆さんの身の回りにも多かれ少なかれ変化が起きたと思います。私の場合は、他人と距離を保つようになってからその繋がり大切さを初めて実感できました。皆さんはいかがでしょう。この先どんなことが起きるのかは予測困難ですが、いままでの経験に基づいてこれだけは確信を持って言えます。「私たちが助け合えば必ず明るい未来を迎えることができます」。人という字は大昔から支え合うものだからです。